

第四章 教 育

1. 市立神前小学校

●校章のデザイン



明治の中頃に最初の校章がつくられた。歴代の天皇が皇位のしるしとして受け継いだという宝物、三種の神器の一つ「やたのカガミ」をデザイン化したもので、大正時代のはじめに現在の校章に改められた。

●学校の概要

明治8年、我が国最初の学校教育に関する教育制度が頒布され、西野村、寺方村、高角村、曾井村の4ヶ村を以って、曾井学校が設立された。当初は、曾井村の真教寺を仮校舎として12月より4教室、生徒数およそ100名をもって授業を開始した。



昔の校名額

間もなく校舎を高角村地内（現在、東海物産）に新築するも明治9年の伊勢農民暴動によって焼失する。

義務教育年限は4年（3年とされた時代もあったが、明治33年に4年に統一された。）で、明治21年に高角尋常小学校と改称された。

一方、尾平村は学区が異なり、明治9年に生桑、大井手、松本、伊倉と大井手村内で三滝学校を設立して授業を始める。

明治22年には、町村自治制度による5ヶ村合併によって大字尾平を含め神前村一円を以って、校名を神前尋常小学校と改称し、校舎新築地に地域の中で中央となる曾井(現在



昔の神前小学校



現在の神前小学校

地)を選定して、明治25年7月に起工して、同年12月25日に開校式を挙げる事となる。

明治41年には尋常科6年（義務教育）、高等科2年と教育年限が改められた。昭和16年には太平洋戦争の開戦に伴い村立神前国民学校と改称される事となる。昭和19年になると食料難から運動場も耕され、さつま芋などが生産された。また、東門を入った右側



奉安殿の宝物を入れた防空壕

には、奉安殿が建てられていて、教育勅語など当時の道德教育の教材が納められていた。戦火が激しくなってきた頃には、保曾井神社の近くへ、生徒自らが横穴を掘り教育に欠かせない資材が格納されたことを、当時の思い出として今も語りつがれている。

終戦後の昭和22年には、6・3制と教育制度が改革され、村立神前小学校と改称されるとともに3年制の新制中学校が併設された。昭和29年に、神前村と四日市市との合併に伴い市立神前小学校と改称される。昭和50年には、創立100周年記念事業が実施されて、地域の住民には、記念誌「いちよう」が、児童には、校章のついた文鎮がそれぞれ配布された。

また、正面玄関の庭園に「仲よし」の像が建立された。生徒がいつまでも仲良く、純粋に生きてほしいとの願いがこめられている。その当時は、13学級、500名の児童数であったが、昭和60年の618名を最高に年々減り続け、平成元年には、492名、平成10年以降は、270名前後の児童数が維持されている。

学校の教育目標、“仲間とともに伸びる子”に向かって、平成16年現在では11クラス289名の「かんぎきっ子」が元気に勉学にはげんでいる。

●学校沿革史

- 明治8年2月 西野村、寺方村、高角村、曾井村の4ヶ村をもつて、曾井村真教寺を仮校舎として、曾井学校を設立
- 明治9年 高角村に校舎を新築（4教室、生徒数およそ100名）したが伊勢農民暴動により焼失する。
- 明治13年 三重郡第17学区、公立曾井学校として再築する
- 明治21年 高角尋常小学校と改称する
- 明治22年12月 大字尾平を加えて神前村一円をもつて、大字曾井の現在地に校舎を新築、神前尋常小学校と改称して、12月25日に開校式を行う

明治31年	教室外面の採光窓を紙障子から硝子障子に変更する
明治34年	小学校令の改正により教科書を変更して、授業料を廃止する
明治41年	神前尋常高等小学校と改称する。尋常科修業年限6ヶ年、高等科2ヶ年、義務教育は尋常科のみ
大正11年4月	西校舎を移転、改築する
昭和4年5月	校舎増改築および移転、運動場が拡張される
昭和7年10月	講堂、裁縫室、来賓室の増築 工事費の内、金6,000円は、現在の関西電力株式会社が負担
昭和9年11月	南校舎が落成
昭和16年4月	三重郡神前村国民学校と改称。
昭和22年4月	教育制度の改革により6・3制実施 三重郡神前村立神前小学校と改称し、神前中学校を併設
昭和28年4月	神前村幼稚園が併設される
昭和29年7月	町村合併によって、四日市市立神前小学校と改称する
昭和33年3月	給食室を新築して、学校給食の施設整備を行う
昭和38年9月	鉄筋2階建て校舎が完成（普通教室8教室）
昭和39年	校歌ができる（辻原正義作詞，欠塚勉作曲）
昭和44年	校旗ができる 簡易プールが完成
昭和46年7月	管理棟および4教室の鉄筋新校舎落成
昭和50年3月	学校創立100周年記念事業の施行 記念誌「いちよう」の発行 正面玄関前の庭園へ「仲よし」の像を建立
昭和52年5月	鉄筋3階建ての南校舎が完成
昭和53年4月	木造北校舎 解体と周辺の埋立て工事施行
昭和53年10月	プール完成
昭和55年5月	屋内運動場（体育館）落成
昭和56年3月	鉄筋3階建て北校舎、給食室が落成
昭和59年7月	学級増のため、プレハブ教室増設
昭和63年3月	北校舎を校長室、職員室、保健室、放送室に改築 旧職員室は視聴覚室に改造
平成元年6月	中庭・ホールの整備、渡り廊下新設



講堂の鬼瓦

平成6年3月 新プール完成

平成10年8月 施設バリアフリー工事

平成13年8月 中校舎西棟・ホールの耐震工事

2. 神前村私立三重明治学校

三重明治学校は、明治30年3月、神前村大字高角の現在神前郷土資料館のところに、近藤千代松により設立された私立学校である。教科は主として珠算いわゆる百日算であったが、明治44年4月に組織を改定して、中学部・師範部・時習部を設け、翌年の師範部卒業生に対し、無試験検定により尋常科准教員免許の資格を付与している。

設立者、近藤千代松が辞任した後、田鶴浦徳静を経て大正時代には石見龍華が校長を努めている。大正4年までの本校卒業生は、男子908名、女子101名で大正5年現在の生徒数は26名となっている。

本校は大正末期に閉校されたもようで、その跡が興村塾となっている。

3. 市立三重西小学校

●校章のデザイン



夏の太陽に向かって大きく花を開く「ひまわり」のように、元気でたくましい子どもに育ってほしいという願い。

花びらの中は、三重西の文字をデザインしてある。

●学校の概要

市立三重西小学校は、昭和46年から四日市市土地開発公社により、曾井町・坂部町の農地・山林68haが住宅団地「三重団地」として開発され、入居者の増加に伴い昭和50年4月に、三重小学校から分離・独立し創立された、三重団地と美里ヶ丘団地の子供達を通う小学校で、三重団地内の三重西3丁目に開校している。



三重西小学校

「豊かな心をもち、仲間と共に伸びようとする子どもを育てる」を教育目標とし、めざす子ども像として、「自ら考え、学ぶ子。友達を大切にする子。進んで体をきたえる子。自らの考えや思いを表せる子。ねばり強くがんばる子。」をあげ、「学校が好き。

友達が好き。地域が好き。がんばる自分が好き。」を合い言葉に教育が進められている。

また、校訓は「天に星」「地に花」「人に愛」とされている。

平成16年4月現在、15学級、383名の元気な児童が学んでいる。

●学校沿革史

昭和50年4月 三重小学校から分離・独立 四日市市立三重西小学校創立
(児童数222名・8学級・教員数15名)

昭和50年6月 市長を迎え、開校式を挙行

昭和51年3月 校歌制定(作詞 中井正義 作曲 小林 仁)

昭和51年4月 3学級増によりプレハブ2教室増築

昭和51年5月 大庭園完成(樹木百余本植樹)

昭和51年8月 25メートル プール完成

昭和52年3月 第2期校舎増築工事完成
(普通教室3・理科室・家庭科室・音楽室)

昭和53年3月 第3期校舎増築工事完成(普通教室6・図書室・視聴覚室)
体育館建設工事完成

昭和55年2月 第4期校舎増築工事完成(普通教室8・理科室・視聴覚室)

昭和55年4月 情緒障害児学級開設(平成7年3月 閉設)

昭和56年4月 知的障害児学級開設

昭和57年3月 第5期校舎増築工事完成(普通教室3)

昭和57年12月 禽舎工事完成

昭和60年6月 校歌碑完成(10周年記念)

平成3年4月 肢体不自由児学級開設(平成6年3月閉設)

平成8年3月 ひまわり広場完成

4. 市立三滝中学校

●校名の由来 桜村、神前村、川島村の3ヶ村が平和に行こうということで「平和中学校」となる。その後、昭和29年7月四日市市との合併により、三滝川に沿ったところに学校があるということを、はっきりさせるため「三滝中」となった。

●校章のデザイン



桜村他2ヶ村組合立平和中学校時代にデザインされた旧校章(鳩1羽)をもとに、3つの地区(桜、神前、川島)を3羽の鳩にたとえて、3地区が仲良くという意味を表わしている。

●学校の概要

昭和22年4月、桜村立桜中学校が発足、同じく神前村、川島村で、組合立神前中学校が神前小学校を仮校舎として発足する。

昭和23年7月に神前中学校と桜中学校が合併して、神前村ほか2ヶ村組合立平和中学校が、桜小学校の隣接地に建てられた木造校舎で開校。

昭和30年4月川島地区の挟間町が学区変更によって笹川中学校へ編入。

昭和32年6月高角町(現在地)に学校用地を買収して新校舎の建設が始まり、昭和35年7月に一期工事が完成、続き二期工事が施工され9月に竣工して、新校舎へ移転する。

昭和49年7月25日未明に当地を襲った集中豪雨によって矢合川が決壊して、運動場および1階教室が冠水する。

昭和52年4月、三重平中学校の新設に伴い曾井町、尾平町の生徒は分離編入となる。

昭和57年4月、桜中学校の新設に伴い桜地区の生徒は分離編入となる。

教育目標として、“支えあい、認めあい、響きあう集団の育成”をめざした学校生活の指導が、健全な学生の育成に寄与されている。

心身の健康と体育向上という目標意識をもった体育活動において、平成7年度にサッカーが、昭和51年度～57年度、59年度～61年度、63年度～平成元年度、平成14年度の延べ13回柔道が全国大会へ出場している。

平成16年現在の生徒数は、14学級、385名である。

●学校沿革史

昭和22年4月 三重郡桜村立桜中学校が桜小学校内に発足

三重郡神前村、川島村組合立神前中学校が神前小学校内に発足

昭和23年7月 神前中学校・桜中学校が合併、桜村他2ヶ村組合立平和中学校が発足

昭和25年1月 北校舎を増築

昭和29年7月 桜村他2ヶ村が四日市市に合併、四日市市立三滝中学校と校名変更



平和中学校



三滝中学校

昭和30年4月	川島地区狭間町が学区変更により笹川中学校に編入
昭和32年6月	智積町倉の坪・高角町西の坪に新校舎移転用地1,000坪買収
昭和35年7月	新校舎第一期工事完了
昭和35年9月	新校舎第二期工事完了
昭和35年10月	新校舎竣工式（四日市市高角町西の坪2077番地）
昭和37年6月	校地1,477坪を買収拡張
昭和41年5月	屋内運動場の竣工
昭和46年8月	プールの竣工
昭和49年7月	未明に集中豪雨、運動場及び1階教室に冠水
昭和52年3月	校地1,533坪を買収拡張
昭和52年4月	三重平中学校の新設に伴い曾井町・尾平町の生徒は分離編入
昭和55年4月	特別教室・受水槽の竣工
昭和56年6月	第二運動場の竣工
昭和57年4月	桜中学校の新設に伴い桜地区生徒は分離編入
昭和58年2月	武道館の竣工
昭和61年6月	第二運動場にテニスコート2面、バレーコート1面完成
昭和62年4月	新屋内運動場の竣工
昭和63年3月	新校舎増改築第一期工事完成
平成元年3月	新校舎増改築第二期工事完成
平成2年2月	西校舎特別教室（美術室、理科室、被服室）の改造工事完成
平成6年3月	プール改築工事の竣工
平成8年3月	中庭多目的広場の完成
平成12年7月	学習用コンピュータ41台配備
平成15年2月	校内LAN整備
平成15年9月	バリアフリー化工事完成
平成15年9月	西館耐震工事完了

5. 市立三重平中学校

●校章のデザイン



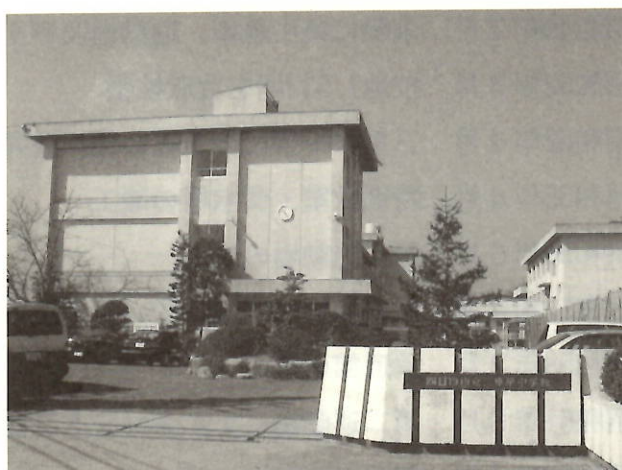
心に温かさ・こまやかさを持ち、人間的な「和」を基盤として、強くたくましく・自らを向上させようとする願いを、杉の木の姿にたくして「三重平中」の文字を図案化している。

●学校概要

昭和46年より四日市市土地開発公社は、曾井町・坂部町の農地・山林68haを住宅団地（三重団地）として開発する。それに伴い昭和52年4月、三重平中学校を創設して開校。三重団地に居住する生徒と、神前地区尾平町、曾井町が三滝中学校より分離して通学することとなる。開校時の生徒は、9クラス、308名であった。

学校教育の特色は、“自ら学ぶ意欲を持ち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成”を目標に進められおり、運動部の活動では、柔道部は、平成6・8・12・13・14・15・16年度個人戦の部で、剣道部は、平成15年度団体戦の部で、テニス部は、平成11年度団体戦の部において三重県中学校大会でそれぞれ優勝して全国大会へ出場し優秀な成績をおさめている。

平成16年現在、10クラス、265名の生徒が学んでおり、開校時と比べても生徒数の変化は少ないようである。



三重平中学校

●学校沿革史

- 昭和52年4月 大池・三滝中学校より分離、三重平中学校として開校
- 昭和52年5月 生徒数308名、9クラス、職員21名をもって、開校式を挙行
ただし、創立記念日は4月15日
- 昭和52年9月 プールおよび付属室完成
- 昭和53年2月 屋内運動場完成
- 昭和54年3月 新校舎（普通教室4室、視聴覚室1室）完成
- 昭和56年3月 技術室完成
- 昭和57年9月 テニスコート2面整備して完成
- 昭和58年3月 特別教室（美術・家庭・調理・図書・視聴覚室）完成
- 昭和61年4月 障害児学級新設
- 昭和63年3月 武道館完成
- 平成2年3月 インターロッキング完成、体育館への渡り廊下完成
- 平成6年11月 和室・コンピューター室完成
- 平成11年3月 相談室完成
- 平成12年3月 バリアフリー工事完成
- 平成15年3月 運動場防球ネット完成

6. 県立四日市商業高等学校

●校章のデザイン



Yokkaichi（四日市）Commerce（商業）の頭文字のY.Cにギリシャ神話に出てくる神々のものである、マーキュリー「商業の神」の杖「カデュアス」をデザインしたもので、杖には2匹の蛇が巻きつき、頂上には双翼がある。蛇は知恵、翼は勤勉を表し、商業教育を行う学校の校章としている。

●学校概要

尾平町永代寺の丘に建つ白亜の校舎である。

三重県立四日市商業高等学校は、全国では18番目、三重県下では、最初の実業高等学校で、明治29年6月に、当時の四日市商業会議所の役員や町会議員などの町の有識者の手によって「私立四日市商業学校」として設立された。

当初、校舎は町内上新町南町会議所を仮校舎として開校。校主、初代校長には井島茂作が就任し、本科、別科、合せて2クラス編成で生徒数59名のスタートであった。

明治30年9月に、浜一色に新校舎が建設されて、上新町南町仮校舎より移転された。明治37年4月に三重県に移管され「三重県立四日市商業学校」と改称。

その後、生徒数増に伴い何度かの増築や拡張が行われる中、昭和20年6月の四日市大空襲にて学校は焼失した。

昭和21年7月より塩浜の元海軍燃料^{ねんりようしょう}廠庁舎跡へ移転をしたが学制改革によって、三重県四日市実業高等学校となり浜田校舎、富田校舎へと移転を経たのち、単独商業学校として独立し、昭和25年4月より、三重県四日市商業高等学校と改称し塩浜校舎に復帰して全日制に商業科、貿易科設置、定時制に商業科、普通科を併置したのであった。塩浜校舎は学舎として建てられていないため、日照条件が悪く昼間でも校舎全体がうす暗く、冬期には寒さに悩まされなければならなかった。

やがて、戦後の復興に伴い旧海軍燃料廠が昭和石油株式会社として業務を開始したことにより、多くの関連会社が誘致され四日市コンビナートとして日本全国有数の工業地帯となった。こうした企業の開設によって、その工業地帯のまっただ中にある学校は、工場から排出される悪臭、騒音、空気の汚染に日々悩まされなければならず、このような環境の中では、もはや



四日市商業高等学校

学校としての機能を存続させることは不可能だと判断する中、学校・PTA・同窓会の間で新校舎建設事業が審議され、新校舎建設用地をめぐって、いくつもの候補地が上げられた。学校・PTA・同窓会が審議を重ねた末、昭和33年4月現在の尾平町永代寺が「四日市商業高等学校建設用地」と決定されたのであった。

この校地誘致にあたっては、当時の学校長で地元出身者の一見義隆校長の多大な努力と功績があったことが認められている。

昭和38年1月、総工費2億2千万円にて、校舎および体育館が完成し、同年2月、塩浜より尾平町永代寺の新校舎に移転され、新本館、体育館の竣工式が挙行された。

創立以来、何度かの校舎の移転を経た三重県立四日市商業高等学校ではあったが、県下一の古い歴史と伝統を誇る中、平成16年現在、商業科、情報処理科、国際関係科の3つの科を持ち優秀な人材を育て、永きに渡って毎年数多くの卒業生を社会に送り出している。

●学校沿革史

- 明治29年6月 四日市商業学校(私立)として四日市町南町にて開校
- 明治29年12月 四日市町に移管されて 町立四日市商業学校となり、公立学校として発足
- 明治30年8月 四日市町が市制施行につき、市立四日市商業学校と改称
- 明治30年9月 浜一色に新校舎を建設し移転
- 明治37年4月 三重県に移管されて 県立四日市商業学校となる
- 明治41年6月 二階建本館新校舎増築
- 明治41年9月 校章制定
- 昭和4年3月 校歌制定
- 昭和19年5月 運動場16,922㎡拡張
- 昭和20年6月 戦火により校舎焼失
- 昭和21年7月 塩浜の元海軍燃料廠庁舎跡へ移転
- 昭和23年5月 学制改革により三重県四日市実業高等学校となり浜田校舎に移転 定時制併設
- 昭和24年4月 総合制実施により三重県立四日市高等学校となり全日制が富田校舎に移転
- 昭和25年4月 三重県四日市商業高等学校と改称し県立の単独商業高校として独立、塩浜校舎に復帰する 全日制に商業科、貿易科を設置、定時制に商業科・普通科を設置
- 昭和30年4月 県立四日市商業高等学校と改称
- 昭和35年4月 四日市市尾平町に校舎移転予定地として、51,572㎡取得
- 昭和38年2月 四日市市尾平町字永代寺の新校舎竣工に伴い全日制移転

昭和42年 4 月	定時制課程は、県立四日市北高等学校として独立
昭和44年 3 月	武道館竣工
昭和47年 3 月	特別教室棟、第一期分竣工
昭和47年 4 月	情報処理科設置
昭和48年 3 月	特別教室棟、第二期分竣工
昭和60年 3 月	第二新館竣工
平成元年 3 月	体育館敷地として4,393㎡取得
平成2年 3 月	新体育館竣工
平成5年 4 月	国際関係科設置
平成7年 8 月	パソコンLANシステム完成
平成8年 4 月	創立100周年記念と記念碑の除幕式
平成11年 2 月	特別棟、耐震工事
平成13年 3 月	情報学習室設置

7. 県立四日市中央工業高等学校

●校章のデザイン



学校の所在を明らかにするため四日市の市章を取り入れ、その特徴として徳力と工業技術をかたどったもので、地球を表したマルは円満な人間像の理想を描き、それに科学時代に即応する宇宙軌動を配して校名の中央になぞらえ、常に真理の探究に志し、躍動している姿を表している。中央の高は高き希望に輝き団結した親和の学園を象徴している。全体として静と動の気を兼ね備え、和やかな校風の中から若人たちが工業界に、飛躍する姿を表している。

●学校概要

昭和37年4月に全日製の工業高校として、県立四日市南工業高等学校が誕生し、四日市市立富州原小学校の一部を仮校舎として開校する。

昭和37年6月には四日市市菅原町に学校敷地5.2haを確保し、同年11月より校舎建設が始められ、昭和38年3月に、本館と実習室の各々1棟が第1期工事として完成、4月に移転するとともに校名も、県立四日市



四日市中央工業高等学校

中央工業高等学校と改める。

昭和45年10月には、県下初のコンピューターを導入して情報技術の教育が始められた。

四日市中央工業高校といえば、「四中工のサッカー」として有名であるが昭和58年と昭和59年の2年連続で全国高校総合体育大会で優勝、平成4年には、全国高校サッカー選手権大会で優勝と輝かしい戦績を残している。また、機械工業の技術者を養成することを目的とした、ロボット研究の成果を競う大会でも、平成12・15・16年度に、全日本ロボット相撲全国大会、平成13・15年度に、高校生ロボット相撲全国大会でそれぞれ優勝している。

平成16年現在の学科は、機械科、電気科、化学工学科、土木科、設備システム科の5学科で構成され、1学年6クラス編成、全18クラス、約700名の生徒が在籍して学んでいる。

●学校沿革史

昭和37年3月	市立富洲原小学校の一部を仮校舎として、県立四日市南工業高等学校を開校
昭和37年4月	4月16日、開校式を挙行
昭和37年6月	校地を四日市市菅原町に定める
昭和37年11月	起工式を行う
昭和38年3月	第一期工事完成（本館、実習室）
昭和38年4月	新校地、菅原町に移転、県立四日市中央工業高等学校と改名
昭和39年3月	第二期工事完成（本館、実習室）
昭和40年5月	図書室、視聴覚教室完成
昭和41年2月	格技場完成
昭和42年3月	体育館完成
昭和45年8月	新体育館竣工
昭和45年10月	電気科に県下初のコンピューターを導入、情報技術教育を始める
昭和46年12月	クラブハウス竣工
昭和47年8月	ウェイトリフティング室竣工
昭和48年7月	プール竣工
昭和50年4月	新館校舎完成
昭和50年8月	全国高等学校総合体育大会、ウェイトリフティング競技 優勝
昭和50年11月	三重県教育委員会より教育優良校として学校表彰を受ける
昭和54年3月	化学工学実習棟増築完工
昭和57年8月	全国高等学校総合体育大会 柔道軽重量級 優勝
昭和57年11月	体育館竣工

昭和58年 8月	全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
昭和59年 3月	土木科実習棟竣工
昭和59年 8月	全国高等学校総合体育大会 サッカー競技 優勝
昭和59年11月	三重県教育委員会より教育優良校として学校表彰を受ける
昭和63年 3月	機械科実習棟竣工、自動制御実習装置設備
平成 4年 1月	全国高等学校サッカー選手権大会 優勝
平成 6年 3月	機械科にCNC旋盤とCAD、土木科にCAD導入
平成 9年 4月	設備システム科設置
平成10年 3月	設備システム棟・屋内プール竣工
平成12年12月	全日本ロボット相撲全国大会 優勝
平成13年11月	高校生ロボット相撲全国大会 優勝
平成14年 3月	全国高校生選抜大会 ウェイトリフティング競技 優勝
平成14年 8月	日本環境科学会主催の環境科学賞優秀賞受賞 化学工学研究部
平成15年10月	高校生ロボット相撲全国大会 優勝
平成15年12月	全日本ロボット相撲全国大会 優勝
平成16年11月	全日本ロボット相撲全国大会 優勝

8. 郡立三重農学校

●学校概要



学校移転の記念碑（四日市農芸高等学校）

三重県立四日市農芸高等学校の前身河原田農学校は、三重農学校・鈴鹿農学校が合併して河原田村出身の熊沢一衛氏の寄付によって現地に設立されたものである。

合併前の三重農学校は、大正4年に設立、郡立2種学校として郷土神前村尾平の地に創設された。当時の三重農学校は学校とは名ばかりで教育施設も

不充分で、教室2教室・校長室兼職員室兼事務室といった粗末なものであり、また、実習施設についても養蚕施設の他に製茶室・豚舎・鶏舎があり、豚舎には豚2頭・鶏舎には鶏が10羽程飼育されていたという小規模な学校であった。

尾平での開校期間は15年ほどと短く、昭和4年には、河原田農学校設立のため鈴鹿農

学校と合併し、両校の生徒は河原田農学校に編入し、三重農学校は閉校となった。

●学校沿革史

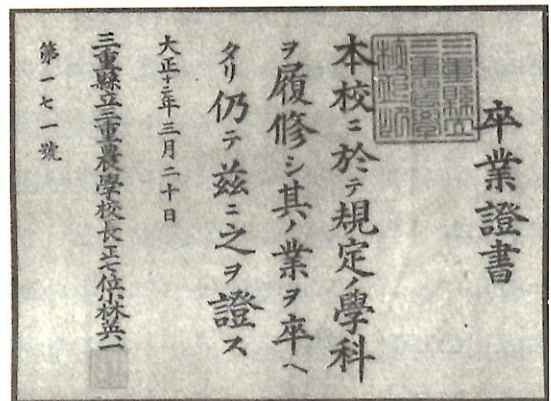
大正4年4月1日 三重農学校創立

昭和4年2月21日 三重県立河原田農学校認可、鈴鹿農学校（明治45年創立）

三重農学校（大正4年創立）両校の生徒を編入して開校



左の校章は、鈴のデザインで鈴農を表わす。中の帽章はAgricultureのAが3つで三重農を表わす。右は大正10年代の三重農の組長章である。



大正12年の卒業証書